

「いのちと地域を守る 外国人入居者 防災学ぶ 賃貸会社が米沢でイベント 地震の仕組み、消火器の使い方… 共助力のアップを目指す」

掲載日：2025年10月06日，面名：EA0XX0，記事ID：K2025100600000009300

(C)河北新報社



賃貸会社が米沢でイベント

全国で賃貸住宅サービスを手がけるビレッジハウス・マネジメント（東京）が、外国人入居者を対象にした防災イベントを9月末に東北で初めて山形県米沢市で開いた。地元の防災士は「地域全体の共助力の力を強めるため、外国人の防災力向上は大切な」と歓迎する。

外国人入居者 防災学ぶ

心肺蘇生を体験するベトナム人入居者

山形県によると、県内に住む外国人は2024年末現在で1万312人おり、10年前に比べて4000人以上増加した。9月27日の訓練に参加した県防災士の鈴木美香副

「揺れています、頭を守って」。スタッフの指示を受け、同社が管理する市内の賃貸住宅2棟で暮らすベトナム出身の37人が一斉に机の下に身を隠した。多くは来日1～3年目の技能実習生だ。市内の企業で働く30代前半男性は、日本で暮らして通算5年になるが、防災訓練への参加は初めて。「母国では水害は起きるが、地震や津波はない。地震の仕組みや消火器の使い方を知らなかったの、勉強になった」と話す。

地震の仕組み、消火器の使い方… 共助力のアップを目指す

いのちと地域を守る

会長は「外国人が増える中、ほかの住民と助け合うためにも防災を学んでもらう必要性が増している」と語る。ビレッジハウス・マネジメントは、全国で約3000棟の建物を管理する。主に平均築50年の旧雇用促進住宅を改装し、平均約3万7000円と割安な価格で貸している。このため、外国人従業員の社宅として利用されるケースが増え、外国人の入居者は全体の約3割弱を占めるまでになった。生活での困りごとを相談できるコールセンターも開設。英語やベトナム語など5カ国語に対応しており、好評を得ている。同社は2022年の兵庫県での開催を皮切りに、防災イベントを外国人入居者が半数以上を占める物件を中心に展開してきた。防災士による地域の災害リスクの解説や、ごみの出し方など生活マナーの説明が主な内容で、日本人入居者との交流を増やそうとバーベキューパーティーを催したこともある。同社東北支社の塚本誠一社長は「各地でイベントを開き、入居者に安心安全を届け、呼び水にしたい」と語る。今後は行政や他の企業とも協力し、取り組みを広げたい考えだ。

（中沢昂大）